

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 白銀 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和4年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における保健体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の2年生は単学級ですので、個人が特定されないことがないよう、公表の方法について配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	28.99	25.74	43.87	51.05	409.81	78.07	8.06	196.89	20.28	41.04
本市	29.89	26.05	45.62	51.43	411.48	79.38	7.98	200.49	20.64	42.89

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	23.21	21.67	46.07	45.81	302.89	51.60	8.96	167.04	12.45	47.42
本市	23.48	21.58	47.11	45.64	303.38	50.85	8.95	169.09	12.41	48.27

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>運動やスポーツに関する意識について、男子では、「することが好きですか」、「大切なものですか」、「する時間を持ちたいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした割合が高かった。女子では、「大切なものですか」、「する時間を持ちたいと思いますか」と答えた割合は高かったが、「することが好きですか」の質問に対して、「好き・やや好き」の割合が全国・北九州市のポイントを大きく下回っている。保健体育の授業に進んで参加する生徒がほとんどで、友達と一緒に体を動かすことや、助け合ったり、教え合ったりする学習に対して肯定的な意見の割合が多い。しかし、人と比べられることや、学習のペースについていけず、「できるようになった」という経験の不足から、運動やスポーツが健康にとって大切なことは理解しているが、運動やスポーツを「する」ことに対して苦手意識をもっている生徒の割合が全国・北九州市を上回っている。次に、生活習慣について、「朝食は毎日食べますか」の質問に対して、男女共に「食べない」と回答した生徒はいなかった。また、「平日に学習以外で1日にテレビ・DVD・ゲーム機・スマホ・タブレットの画面をどのくらいの時間みえていますか」の質問では、「3時間以上」と回答した割合が男子で全国・北九州市を上回り、女子では下回っている。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で）

保健体育においては、競技の特性に応じて生徒たちが主体となってルール工夫を考え、「みんなが楽しめる」ものになるよう努めている。個別最適化された課題を提示し、「学び合い」形式で活動するため、生徒が主体となり、生徒同士で教え合い、仲間と触れ合う楽しさを感じられるようにする。また、ICT機器を活用し、自己や友達の動きを客観的に捉え、アドバイスを送るなど「みる・支える」といった多様な関わり方ができるように工夫している。

② 運動習慣等に関する取組（1校1取組）

- ・保健体育の授業において、種目の特性に応じた動きを準備運動に取り入れ、体力向上に努める。
- ・朝食を摂ることの大切さや、生涯に渡り健康で活力のある生活を送るためには、運動やスポーツを行うことの重要性を保健体育、家庭科、道徳の授業を通して継続的に指導していく。
- ・福岡県が実施している、運動やスポーツに関する事業を積極的に活用できるように資料の提示を行う。